

農業の視点拡大、農業技術や体験の取り組みについて雑感

2015.02

◆ まえがき

最近、中山間の農村を守るためと称して農林行政やボランティア団体などが著名人を招いての講演会や農業従事者による実践報告会が結構あちこちでしかも頻繁に開催され、関係各位の参加で多に賑わっています。しかしながら、そうした企画が目白押しの割には、世の中へは今ひとつ伝わってはいません。農村の方々が農業体験の企画をしたり、グリーンツーリズムの方が頑張っていたりしていても、です。どうしてそうなるのでしょうか、ここでは農の問題をもっと大きな社会全体の視点で捉えて検討することにします。

◆ アプローチ

農に従事する皆さまの活動を知れば知るほど、有識者がいうように「行政との連携・都会との連携」や「活動の応援・支援」といった枠を超えた取り組みの必要性を感じます。私は、活動の応援や支援については、NPOや市民団体の活動の活発化を期待するとともに、専門家及び専門分野の役割と生活における意識を問題にしたいと思っております。（ただし、行政との連携や都会との連携には問題多しという意見があることを付記しておきます。）

◆ 展開

ここでは専門分野として農業技術分野と教育分野をあげ、農の問題について述べます。

（1）農業技術分野

農業の技術分野(教育・研究をも含む)では、遺伝子組み換えや水栽培の技術開発が盛んです。特に水栽培は作物の工場生産に道を今以上に開くとのことです。しかし気になることもあります。それは農業技術が脱土壌を目指していることであり、社会に対しては土との無縁化を結果的に進めることにつながる可能性があることです。

これに対して農業技術者は肥料や農薬開発さらに農業土木的支援もやっているのではないかという声も聞こえます。それはそれで結構ですが、技術がもっと今の農業の良さを支援するようになればとの思いを持っています。例えば素人的考えですが、(糖度アップの技術は目を見張りますが) 農作物にどれだけ栄養価や安全性の面からアプローチがあってもいいように思います。また開明的な専門家がもっと増えることを期待したいです。あくまでも素人考えです。

（2）教育分野

農の方は多くの方々に自然体験・農業体験されることを希望しておられます。私も、学生さんに自然体験・農業体験をしていただくことには大賛成です。そして、そこに教育系の大学人や学生もぜひとも加えて欲しいものです。私の目からはどうみても彼らが自然体験や農業体験に理解を示しているとは思えず、(幼保を含めた) 教員・指導者の養成教育では、自然体験等がカリキュラムに盛り込まれないことが多く、そこを通過して世に出る若い方々はまるでダメというのが実情です。そんな方々が幼稚園や小中学校で教育に当たるので、自然を理解や親しむ子どもが日常的にも育たないのは当たり前となります。事実、

幼保施設を視察しても、自然との戯れや土との接触はきわめて少ないです。

また、こうした傾向は行政にもみられます。例えば、某県の子ども遊びの関連施設では室内砂場をつくり、そこにコーティングした外国産砂を入れて、砂が手に付着しないし水を使わず整形できるとあって、管理者はしきりに汚れない砂場を誇っていました。自然について勘違いもはなはだしい事この上なしです。

以上、自然の無理解や意味の取り違えの方が増えないよう、農からのアプローチに期待したいところです。

(3) 専門分野としてあえていえば生活分野という枠組みかと思います。生活の視点でこの問題を考えてみます。

農村と都会の連携や、子どもの自然体験・農業体験も大賛成です。しかしながら、農業体験の目玉であるグリーンツーリズムが「ままごと遊び」とたまに揶揄されるように体験活動がまだまだこれからという感がしてなりません。これは、ひとえに、体験後のケアが視野に入っていないからでしょう。確かに、外部からの訪問者にとっては、農村での体験を非日常のイベントとして楽しんでおりますが、実はそれで終わっているのです。(これは街づくりでも一緒のことです。) 本来はそこでの体験が訪問者各自の自宅や自分たちの地域で生かされて始めて意味をなすと考えます。すなわち、都市生活の中に農の生活が入り込み日常化するということです。

ではどうするか。都会に自然や農のファンが増えるだけでも御の字ですが、最近あちこちで見かけるようになった街中農園もさることながら、都市生活の中で土と戯れる場を自宅でも地域の公園でも確保し営むようにすることです。具体的には皆さんの知恵に期待したいです。なぜなら皆さんの自然発生的な自然発想を大事にしたいからです。

ちなみに私は、砂場とともに土場あるいは泥こね場があるべきかと思っております。土イコール農という図式で、農が息づくかと。それにもうひとつ、農村の方が都会に作物を持って行くならば是非土も一緒に持って行って欲しいものです。泥のついた野菜を(子どもが)みれば、野菜は店で金を出して買うものということではなく土あつての作物という認識にかわっていくかと思えます。そしてなにより農と土の匂いを都会に届けることにより、生活環境がより自然になって行くかと存じます。

◆ おわりに

以上のように専門分野の役割、専門家の役割を垣間見ました。その背後には、「人類文化の源は農であること、それは土が支えていること」を今の高度技術文明社会だからこそ社会が再認識する必要があるのかもしれませんが。そこまで立ち入らないと、専門家が問題の根幹に入っていけないのかもしれませんが。そういえば、いろいろな専門分野でも文化という言葉がでるようになってきました。ならば、専門家にもう少し踏み出して、と声援を送る次第です。

末筆になりましたが、農の現場について一言。方々には頭が下がるばかりです。皆さんの活力が農の応援・支援の世論を今以上に喚起することを望んでおります。皆さんの活動がもっともっと広まっていくことを願って、終わりといたします。

ここまでお付き合いいただきましてありがとうございました。